

令和 2年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R02年度	R03年度	R04年度
活動 指標	教育支援センターフレンド「ゆうの木」における相談実施件数	件	目標	3,000.00	3,000.00	3,000.00
			実績	2,868.00	0.00	0.00
	生徒指導相談員助手	人	目標	4.00	5.00	6.00
			実績	4.00	0.00	0.00
成果 指標			目標	2.50	2.50	2.50
			実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	学校不適応児童生徒や相談へのニーズは高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	行政の実施する事業である。
	手段の妥当性	A 妥当である	利用者がより良い方向に改善している。
効率性	コストの効率性・人員効率	C 改善の余地はある	対応する支援者や勤務時間数を増やしていくことを検討する必要がある。
公平性	受益者の偏り	C 偏りがある	設置場所が市内の北部地区にあり、南部地区の市民が利用しにくい状況がある。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	成果を測る指標が難しい。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	設置場所や支援員の人数増加を検討する必要がある。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
不登校児童生徒の解消は、即効性が得られない。長いスパンで継続的に指導していくことが解消への近道といえる。今後も、学校・家庭・専門機関との連携を密にしていきたい。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
不登校児童生徒の出現率は、今後ますます増加することが考えられる。市民や学校関係者からのニーズも高く、相談体制の充実や南部地区の児童生徒への支援体制の強化も検討していきたい。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
方向性の具体的内容 不登校児童生徒の原因が多様化され、増加している傾向にある。児童相談所等との関係機関との連携がますます重要であり相談体制の充実が必要であるとする。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。